岩見沢東高等学校　男子テニス部通信　　２０１７．３．２２．

Ganto Tennis　第６２号

文責：佐々木雄介

暗　中　模　索

暗闇の中で手探りするように、手がかりのないものをいろいろ探ってみること

１４人の２年生は version up して、いよいよ「受験生」になった。暗中模索しているだろうか。一番困るのは、自分が暗闇の中にいることにすら気付いていないことである。

頑張ろうとしてもさっぱり頑張れない自分に嫌気がさし、それでも頑張ろうとするけれど、やっぱり頑張れなくて、うんざりして、ため息をつき「やっぱりダメかな」などと思う。これが暗中模索である。そんな思いを何度も繰り返し、それでも諦めずに頑張ろうとして、そうやって受験生はやっと頑張れるようになっていくものだ。

未だに暗中模索していない者は、ちょっと考え直した方がいいかもしれない。頑張ろうと思ったこともないのであれば、そしてそんな自分をなんとかしようと思ったこともないのであれば、はっきり言うけれど、もう手遅れである。

暗中模索して自己嫌悪の淵で藻掻いている人は、今こそ思い切り苦しみなさい。暗闇が深ければ深いほど、その中に射し込む光は、余計に明るく見えるはずだから。

「明日から頑張ろう」と決めたところで、明日からは頑張れない。「今日から頑張ろう」と決めた人は、もしかすると２ヶ月ぐらい後になってやっと暗中模索の闇を抜け、頑張っている自分を見出せるかもしれない。ただし、仮に頑張れるようになったところで、それがそのまま結果に結びつくほど受験は甘くない。本当の努力はそこから始まるのだ。

焦らずに苦しみなさい。焦らずにダメな自分を見つめなさい。焦らずに机に向かって、無駄な時間を費やしなさい。そして焦らず自分を信じ、未来の成功を信じて、報われない努力を重ねなさい。どんなに苦しくてもいい。今、苦しみを感じられるなら、お前はちっとも出遅れていないのだから。そして、そんな悠長なことをやっていられる時間は、もうそんなには残っていないのだから。

目標のために没頭して取り組むことを始めた数ヶ月後の自分を想像してみるがいい。あの適当で、いい加減で、見通しが甘くて、無気力で、グータラだった自分が、一心不乱に頑張ってるのだ。お前がそうなるために、私は「ガンバレ」という安易なエールの代わりに、精一杯の愛をこめてこの言葉を贈りたい・・・・・・さあ、もっと苦しめ。

（小説『暗中模索』佐々木雄介）

勉強にまったく身が入らない自分が歯痒(はがゆ)くてならなかった。どうすれば本気になれるのかさえ見当が付かないのだ。重い足取りで歩く茂作(もさく)を遠くから見つけたのは、小学校の時の同級生のロマンだった。懐かしさのあまり、ロマンは大声で叫んだのだ。

“Hey ！ Aren’t you Mosaku.”**（おい、茂作じゃないか）**

雷にでも撃たれたみたいに立ち止まった茂作は、ロマンが口にしたその言葉を噛みしめるように声に出してみた。真っ暗な闇の中に一筋の光が射したように思えた。